

学校概要

創立 97 周年	学校長 小竹 護	副校長 加藤 純	学期 2 学期制	児童・生徒数 585 人
学級数 一般級: 18 個別支援級: 4		主な関係校: 岡津中学校		

学校教育目標

「かがやけ ひびけ ひらけ 岡津の子」
 「かがやけ」一人ひとりが自分を自分らしくみがいていく子ども
 「知」一人ひとりが学ぶ楽しさと創り出す喜びを通して、自分の学びを大切に、自主的に学び続ける子を育てます。
 「体」心と体の健康を大切に、自分や人の生命を大切にする子を育てます。
 「ひびけ」友だちとの関わりを大切に子ども
 「徳」他者を思いやり、規律を守って集団行動をしながら互いのよさを認め合う子を育てます。
 「ひらけ」広く地域や社会に目を向ける子ども
 「公」地域の人の関わりを通じて地域社会の活動を大切にしようとする子を育てます。
 「開」様々な人とのコミュニケーションを通して自然や社会に目を向ける子を育てます。

学校の特徴

- 地域の自然環境を生かした教育活動が実践できる素材が豊富にあり、様々な教育活動の中で大切にされている。
- 保護者・地域からの信頼が厚く、地域の教育力を活用した教育活動がなされている。児童も積極的に地域の活動に参加している。
- 授業づくりに熱心な教職員が多く、学び合う姿勢が生まれている。主幹教諭・ミドルリーダーを中核とした三部会制度が定まり、PDCAサイクルがなされている。
- 児童養護施設をはじめとする配慮を要する児童への指導の共通理解を図っている。
- 「岡津っ子スタンダード」等での、基本的な生活習慣の定着を継続的に指導する必要がある
- 学力・学習状況調査の結果から、基礎・基本の定着を図る必要がある。

学校経営中期取組目標

- 自己有用感の育成と授業力の向上をめざします。～キャッチフレーズ『つなぐ×3』～
- ① 児童と教材、児童と児童をつなぐ
 ☆ 授業の楽しさを実感できるように授業づくりを推進し、学力の向上を目指します。
 - ② 過去と未来の自分をつなぐ
 ☆ 子どもたちが自他の考えを認め合い、お互いを尊重しあう学年・学級経営に努めます。(目の前にいる子どもたちの問題への気づきと適切な支援)
 - ③ 教職員と教職員、教職員と保護者・地域をつなぐ
 ☆ 教職員チーム力の醸成と向上を目指し、学校運営組織の確立を推進します。

小中一貫教育の取組

岡津中	ブロック	岡津中学校、緑園東小学校、緑園西小学校、上矢部小学校
9年間で育てる子ども像	さまざまな人とのコミュニケーションを大切にしながら、自分らしさを発揮し地域の中で心豊かに生きる児童・生徒	
自校の具体的取組	教職員の共通理解のもと、一人ひとりの子どもの心の居場所と役割がある学級づくりに取り組んでいます。また、小中交流を通して、子どもたちが安心し、期待感をもって中学校に進学できるようにします。	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	子どもが学習の主体となるように「わかる楽しい授業」の設計を進め、自主的・自律的に学習に取り組む姿勢を育てる。	①子どもにとって身近な学習を取り上げ、楽しく分かりやすい学習を実践し、子どもたちの学習意欲を高め、知識の定着を目指す。②「学習のめあて&まとめ」の板書のあり方を共通理解して授業に臨む。③学習問題の明確化を図り、子どもたちが自ら問題を追究・解決できるような指導を行う。④幼保小連携推進地区事業を通して、スタートカリキュラムの編成・実践に取り組む。⑤朝読書や毎日の音読を通して、言語活動の充実を図る。
豊かな心	道徳の時間はもとより、各教科等の授業を含む様々な教育活動において、自他を大切にしている心情や態度を育てる。	①あいさつするよさに気づき、自ら進んであいさつができる習慣を身に付けるように継続的に行っていく。②なかよし学年(1・6年、2・5年、3・4年)での活動を年間を通して行い、異学年同士のつながりを築き、それぞれの学年の立場を生かした活動を進めていく。③「いじめ0」の学校を継続するために、風通しのよい空間を構築し、子ども同士のコミュニケーションを大切にいく。
健やかな体	保護者の理解のもと「早寝、早起き、朝ごはん」を推進し、一校一実践運動の「子どもの体力向上プログラム」を継続的に取り組みながら体力向上を目指す。	①「早寝、早起き、朝ごはん」を合言葉に規則正しい生活を培う。②一行一実践運動に「縄跳び」を取り上げ、長縄大会を通して体力の向上に励む。③地産地消を考え、総合的な学習の時間等を学んだり、泉区産の食材を使用した給食を入れたりする。
特別支援教育	特別な支援が必要な子どもについて、個別の教育支援計画や個別の指導計画を立て、すべての教職員がかかわりながら、それぞれの子どもに合った指導が行う。	①児童養護施設の子どものための生育環境や資質・能力を全職員で共通理解するとともに、施設職員とも連携を取りながら、生活・学習指導を進めていく。②教室にいる特別に配慮が必要な子どもの取り出し指導を充実させ、基礎・基本のつまずきを個別に説明し、学力向上につなげていく。③生活・学習のユニバーサルデザイン化を進め、どの子どもでも分かりやすい授業をめざす。
地域連携	保護者・地域のサポートを生かし、開かれた学校づくりに努めるとともに、放課後キッズとの連携を図る。	①創立100周年が目前に迫り、子どもたちの「ふるさと意識」を養い、自分たちのまちの良さに気付ける学習を進める。②28年度開設された放課後キッズ(地域NPO法人)との連携を図り、放課後の子どもたちの居場所づくりに協力する。③まちとともに歩む学校づくり懇話会を活用し、地域・保護者と連携して、地域に子どもたちを見守る体制作りを継続する。
教育環境整備	ICT機器や教材の活用を図り、ユニバーサルデザインを生かした授業づくりを進める。	①タブレット端末を活用した授業づくりを通して、子どもの一人ひとり(グループ)の考えを共有し、より多様な見方・考え方を表現できるようにする。②どの子どもでも分かりやすく理解できるように、生活や学習のユニバーサルデザイン化を進めるための、教室環境整備を行う。
いじめへの対応	「いじめ0」の学校を継続するために、子どもの一人ひとりの心理や特性を見出す児童理解に努めるとともに、小さな発信を見逃さず、教職員全体での共通理解のもと、予防や解決に努める。また、道徳教育、人権教育に充実を図る。	①いじめに関する教職員一人一人の感性を磨くため、カウンセリングスキル等に関する研修の実施する。②「特別の教科 道徳」において、児童に自己を見つめ、より多角的にとらえ、自らの考えを深める力をはぐくむ学習を用意する。③学級の様子を学年研究会や職員会議及び「いじめ防止対策委員会」で情報共有する。④保護者からの情報提供をもとに、事実確認と対策を「いじめ防止対策委員会」において迅速に検討し実施する。⑤学校だけの情報共有にとどまらず、関係諸機関と連携して当たる。

人材育成・組織運営	校内研修の計画的な実施により、コンプライアンス、特別支援、危機管理対応能力等、学校に求められる教職員の力量向上を図る。メンターチームを充実させ、若年層相互や中堅・ベテランの経験の伝達を重視し、学習指導と生活指導双方の実践力を高める。	①メンターチームを5年経験以下の教職員中心に組織し、メンター主任を中心に自分たちで研修を運営する。主に授業研究を中心に進めながら、ミドルリーダー等からの指導も受ける。②情報機器を活用して、情報の共有化を図るとともに事務の簡素化を図る。③若手教職員に、学校運営への参画を促し、主幹教諭等のアドバイスを受けながら、企画・整理・提案・実践・反省と引継ぎを行うようにさせる。
-----------	--	---